

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性 ・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

【基調】

進学指導特色校（グローバル・グー・ハイスクール）の継承・発展 ⇒ 深化する高津高校・高津生は一つ（普通科と文理学科の協働と切磋琢磨）／力のある教職員

1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、本校独自の「Can-do リスト」を作成し、生徒に明確な道標を提供する
* 生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H25：3.1／4点満点）を平成28年度までに3.2以上に引きあげ、維持する

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

* 難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生/H25：56人）を平成28年度までに60人以上に引きあげ、維持する
* 国公立大学への現役生の合格者数（H25：128人）を毎年120人以上で維持する

ウ 英語運用能力の向上

英語で授業を行うことを基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

* 実用英語技能検定試験2級合格者数（H25：33人）及びTOEFL ITP 500点以上を得点した生徒数（新規）を平成28年度までにそれぞれ50人、20人以上に引きあげ、維持する

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

* 文理学科2年生の「課題研究（高津LCII）」に対する満足度を高めるとともに、普通科生徒の参加数（H25：約100人）を150人以上に増やす

イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

* 1・2年生の文理学科の外部連携事業への延べ参加者数（H25：820人）を平成28年度までに960人に引きあげ、維持する

ウ 海外の科学先進校との交流の推進

海外の科学先進校との交流日数を増やすとともに、共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容を充実させる

* 交流日数（H25年度：9日）を平成28年度には12日まで増加させ、維持する

(3) 進路指導をさらに充実させる

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学等研究室・機関訪問）の充実

1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時の質問内容の精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2年生は、大学等における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

* 1・2年生とも訪問先（H25：1年生63カ所、2年生50カ所）を50カ所以上、生徒満足度（H25：92%）を90%以上で維持する

イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実

学校としての進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）を確立し、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

* 生徒・保護者向け学校教育自己診断の進路指導に関する満足度（H25：80%・82%）を、ともに平成28年度までに85%以上に引きあげ、維持する

2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

* 生徒・保護者向け学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H25：ともに86%）を、85%以上で維持する

* 部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H25：88%）を、平成28年度までに90%以上に引きあげ、維持する

(2) 規律・規範意識の向上

* 年間の遅刻者総数（H25：2,415件）を平成28年度までに2,000件以下にし、維持する

(3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

* 部活動加入率（H25：88%）を、85%以上で維持する

* 記念祭（体育祭・文化祭）における生徒実行委員会（三部会）に参加する生徒数（H25：240人）を200人以上で維持する

(4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

* 生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（H25：72%）を、平成28年度までに75%以上に引きあげ、維持する

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 教科指導力の向上

* 生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H25：3.1／4点満点）を、平成28年度までに3.2以上に引きあげ、維持する

(2) 研修の充実

* 教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H25：63%）を、平成28年度までに80%以上とし、維持する

(3) ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成

* 教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（新規）を、平成28年度には70%以上とする

(4) 学校の組織的運営

* 教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携・有機的機能に対する肯定的意見（H25：70%）を平成28年度には80%以上とし、維持する

(5) ICT活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実、校務の効率化及び情報共有

* 生徒向け学校教育自己診断のICT活用や実験・実習、体験的な教科指導に対する満足度（H25：65%）、教員向け学校教育自己診断の円滑な連携、校務の効率化及び情報の共有に対する肯定的意見（新規）をともに平成28年度までに75%以上とし、維持する

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

* 生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、クラブ員によるキャラバン隊等）をさらに活性化させる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力をふまえて、高い志を高く、進路実現をめざす取組み	【新学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の実施】 ア 文理学科2年次の課題探究講座の充実	ア・文理学科2年次の「課題研究（高津 LCⅡ）」を通して、生徒の探究心とプレゼンテーション能力の向上を図る。（継続・発展）。また、生徒発表会への普通科生徒の参加を増やし、その成果をより多くの生徒に普及させる。（継続）	ア・文理学科2年生の「課題研究（高津 LCⅡ）」に対する満足度を高める（アンケート／満足度 100%）。 ・研究発表分科会への普通科生徒の参加人数（H25：約 100 人）を 150 人以上に増やす。	
	イ 魅力ある授業等の実施	イ・効果的な補助教材（ICT 活用を含む）を開発するとともに、教員同士の授業交流と研究協議を一層活発にし、指導技術をさらに高める。（継続・発展） ・授業における ICT の活用を図る。（充実） ・高大連携事業等をすすめ、大学における学問や研究に対する興味関心を高める。（充実） ・1・2年生全員対象に英語少人数集中講座を通して、英語コミュニケーション能力を向上させる。また、1・2年生対象に、実用英語技能検定試験等の受験を促進する。（発展） ・土曜講習や補習等の内容を充実させ、生徒の学力を向上させる。（充実）	イ・生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H25：3.1／4点満点）を 3.2 以上にする。 ・生徒・教員向け学校教育自己診断の、授業における ICT 活用についての肯定率（H25：生徒 70%、教員 78%）を、それぞれ 5% 以上引きあげる。 ・高大連携事業への参加生徒数（H25：820 人）を 900 人以上に増やす。 ・1・2年生全員に実用英語技能検定試験の受験を促し、英検 2 級合格者（H25：33 人）を 40 人以上とする。 ・生徒向け学校教育自己診断での肯定率（H25：76%）を 80% 以上に高める。	
	ウ 体験型進路学習の充実	ウ・総合的な学習の時間を活用し、7月と秋に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。（継続・発展） 1年生「職業人からの聴き取り」 2年生「大学等研究者からの聴き取り」	ウ・生徒の満足度（H25：92%）を 90% 以上で維持する。	
	エ 教育課程の点検	エ・教育課程を点検し、必要に応じて見直しを行う。（継続）	エ・平成 28 年度入学生を対象とした教育課程において TOEFLiBT 受験に向けたコース設定について、今年度中に結論を得る。	
豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立	【人権尊重と規範意識の向上】 ア 人権尊重精神の育成	ア・学年進行に応じて人権尊重の精神を涵養する。（継続） 1年 学習合宿（コミュニケーション力等） 近畿統一応募用紙、講演会、 リバティおおさか見学 2年 車いす・アイマスク体験、講演会 3年 講演会 ・SSH事業等を通して、海外の高校生との交流を促進し、国際理解を促進する。（充実）	ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断での肯定率（H25：ともに 86%）を 85% 以上で維持する。	
	イ 社会体験・社会貢献活動の促進	イ・社会体験・社会貢献活動を促進する。（継続） 1年生希望者対象「ボランティア講座」 東大阪支援学校、視覚支援学校との交流 クラブ員の社会貢献活動「高津キャラバン隊」 高校生フェスティバルでの高齢者との交流	イ・ボランティア講座参加生徒数（H25：のべ約 120 人）を 150 人以上に増やす。 ・全クラブが社会貢献活動を年 1 回以上行う。	
	ウ 基本的な生活習慣の定着	ウ・挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む。（充実）	ウ・遅刻者数（H25：2,415 件）の減少をめざす（2,000 件以下）。	
	エ 教育相談体制の充実	エ・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。（継続・発展）	エ・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（H25：72%）を 75% 以上に、保護者の学校への相談に対する満足度（H25：68%）を 70% 以上に引きあげる。	

教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	【教師力の育成】	ア・教員間の授業交流を促進するとともに、研究授業を通して、授業力向上に努める。(充実)	ア・授業アンケート全質問の平均値を3.2以上に引きあげる。
	ア 教科指導力の向上	・生徒よる授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員にフィードバックし、授業改善に生かす。(継続・発展)	
	イ 教職員研修の充実	イ・人権や教育相談をはじめ、校内研修や学校外の研修を通して、諸課題に対する理解を深める。(継続)	イ・教員向け学校教育自己診断における満足度(H25:63%)を65%以上に引きあげる。
	ウ ミドルリーダーや経験の少ない教員の育成(講師を含む)	ウ・校内で学習会を実施するなど、教科指導、校務分掌のほか、さまざまな教育活動や開かれた学校づくりへの参加・参画を促進する。(継続・充実)	ウ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(新規)を60%以上にする。
エ 校務のさらなる効率化及び情報共有	エ・学校のさらなる組織的運営を図る。(継続・発展)	エ・教員向け学校教育自己診断における肯定率(H25:70%)を70%以上で維持する。	